

技師会と共に歩むということ

富田 博信

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

医療を取り巻く環境は、今まさに大きな転換期を迎えています。少子高齢化の進行、医療人材の不足、医療技術の高度化、そしてAIをはじめとするデジタル技術の急速な発展により、診療放射線技師に求められる役割は、これまで以上に広がりを見せています。また放射線を取り扱う専門職としての責任に加え、医療安全、被ばく管理、タスク・シフト/シェア、チーム医療への参画、さらには医療の質と安全を支える存在として、社会からの期待はますます高まっています。



このような時代において、診療放射線技師一人一人が専門職として成長し続けることが重要です。しかし、個人の努力だけでは解決できない課題も少なくありません。関係法令の整備、職域の拡大、教育体制の充実、社会への発信、行政や関係団体との連携など、診療放射線技師全体の未来に関わる課題は、個人ではなく組織として取り組む必要があります。そこに日本診療放射線技師会（技師会）の大きな役割があります。

技師会は、会員が所属する組織であると同時に、診療放射線技師の専門性を社会に示し、職能を守り、次の世代へとつなげていくための基盤です。技師会は日々の臨床現場などで得られる会員の経験や課題を集約し、教育・研修を通じて知識と技術を高めるために必要な情報を迅速に共有します。こうした技師会の活動は、会員一人一人の実践力を高め、医療の質と安全を担保することにつながります。また診療放射線技師の業務や役割を国民や医療関係者に正しく理解していただくためには、組織として継続的に情報発信していくことも不可欠であり、これも技師会としての重要な活動です。

一方、技師会活動は、時に自分の日常業務から離れた遠い組織のように感じられるかもしれません。しかし、診療報酬、法制度、教育、認定制度、医療安全、被ばく管理など、日常業務に関わる多くは、技師会の継続的な活動と無関係ではありません。今、当たり前のように行っている業務や専門職として社会に認められている立場は、先人たちが長年にわたって築いてきた努力の上に成り立っています。その歩みを受け継ぎ、さらに発展させていくことが、現在を担う私たちの責務であると考えます。

会員の皆さまには、ぜひ技師会を「遠い組織」としてではなく、「自分たちの未来をつくる場」として捉えていただきたいと思います。学術大会やe-ラーニング研修会への参加、情報発信への協力、地域活動への参画など、その関わり方はさまざまです。小さな一歩であっても、多くの会員の力が集まれば、診療放射線技師全体の大きな推進力となります。

技師会は、会員の皆さまと共に歩む組織です。変化の激しい時代だからこそ、会員が互いに学び、支え合い、専門職としての価値を高めていかなければなりません。一方で、近年は技師会へ加入する会員数が十分とはいえない状況です。診療放射線技師の未来をより確かなものにするためには、より多くの仲間の参画が必要です。会員の皆さまには、身近な職場のスタッフにも技師会活動の意義を伝えていただき、仲間と誘い合いご入会いただきますようお願い申し上げます。診療放射線技師の未来を切り拓く力は会員一人一人にあります。その力を結集し、次世代に誇れる技師会を築いてまいりたいと思います。